

【資料2】

県が指定する園における【受入型研修】について

～受入型研修園で子どもたちと一緒に活動し自然保育を体験する研修です～



「自然保育専門研修」と聞くと、難しい印象を受けるかもしれません、それぞれの受入園において研修参加者が、子どもたちと関わりながら、自然保育の実践を体験し、受入園の保育者と情報交換をするという研修です。これまでの研修から、受入型研修の良さやポイントをお伝えします。

・ 子どもと一緒に自然の営みを五感で感じます

風に向かって風を感じて歩いたり、ふわふわした落ち葉の上を歩いてカサカサする音を楽しんだりと、自然の中に身を置くことで気持ちよくなる感覚を子どもと一緒に感じて、子どものつぶやきに耳を傾けながら楽しみましょう。



・ 緩やかな時間の中、空間的な制限が少ない場所で子どもと遊びます

子どもたちがたくさんのこと気に付くためには、ゆとりのある時間と自然の空間が大切です。子どもの目線になって一緒に笑いあう。子どもは心が開放され、思い切り遊ぶ中で子どもたちは、豊かな気づきや自由な発想が生まれてきます。1日ゆったりとした気持ちで研修しましょう。

・ 子どもの力を信じ、子ども自身で考えて行動する雰囲気や環境を作ります

大人の枠の中に子どもをはめ込まないために、保育者は子どもを信じて温かなまなざしで見守り、子どもが自ら考え自ら行動する雰囲気を作ります。できないから止めるのではなく、どうやったらできるのかを子どもと考えます。もちろん安全管理は最重要です。子どもが安心して主体的に活動できるフィールドの環境構成も考えます。

それらのことを考えながら研修に参加してみてください。

当日のスケジュール(例)

(園によって、時間や内容が少し異なります。)

9:00ごろ 現地集合
9:30ごろ～ 子どもたちとの保育に参加
　　昼食
　　(園によっては、子どもと同じ
　　メニューを食べる園もあります)
　　午睡の時間～ 又は降園後
　　振り返り研修 他研修
16:00ごろ 研修終了

・ 子どもと一緒に生物や動植物の命を感じます

子どもとともに、生物や動植物とのかかわり合いを楽しむ中で、命を感じ、命を大切の思う気持ちを、子どもたちと共有してみましょう。

・ 研修者と交流し学び合います

信州やまほいくの研修は、園種を越えて保育者が学び合うことができます。県内各地から自然保育を学ぶことを目的に集う仲間と、子どもの姿を通して学び合ってみましょう。そして、「自園の子どもたちとだったらどんな自然保育ができるだろう。」と思い描いてみましょう。